

荒廃森林再生事業効果調査について

1. 効果調査の項目

- 樹木の形状比の改善・・・(毎木調査)
- 下層植生の増加・・・・・・(下層植生調査)
- 土砂流亡の低減・・・・・・(土砂流亡量調査)

2. 主な調査内容

毎木調査

調査地内の胸高直径、樹高、枝下高の測定を行い5年後に再調査。

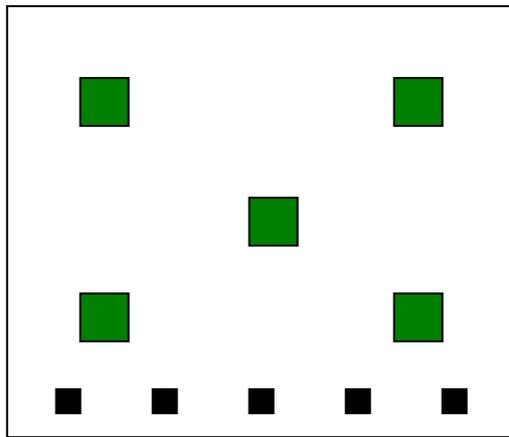
下層植生調査

の調査地に小区画の多点調査地を設定し、間伐前の植生調査(写真1)、全天空写真(写真2)による開空度(明るさの指標)の測定を行う。間伐後毎年、同一地点での植生調査、開空度の測定を行う。

土砂流亡量調査

の調査地に土砂受け箱(写真3)を設置し、毎月1回、貯まった土砂を回収し細土、礫、落葉に分類し重量測定を行う。同一地点において間伐前と間伐後数年間のデータを比較することで間伐の効果を実証する。

荒廃森林再生事業効果調査の概念図



20m

毎木調査

試験地面積 20m × 20m

下層植生調査

■ 調査プロット 1.0m × 1.0m

土砂流亡量調査

■ 土砂受け箱 0.25m × 0.20m

20m

下層植生調査プロット（写真1）



天空写真（写真2）



土砂受け箱（写真3）



土砂受け箱の設置状況



土砂受け箱に貯まった土砂

